

研 究 分 野	資源管理	部 名	資源開発部
研 究 課 題 名	資源回復計画推進事業（イカナゴ）		
予 算 区 分	漁業調整費（交付金）		
試験研究実施年度・研究期間	H19～H23		
担 当	高橋 宏和		
協 力 ・ 分 担 関 係	なし		

〈目的〉

イカナゴ資源を回復する方法を検討するにあたり、必要な情報を得るための調査を実施する。

〈試験研究方法〉

- (1) 漁獲動向調査：県内主要漁協における漁獲量と漁獲金額を調査した。
- (2) 稚仔分布調査：2～4 月に各月 1 回、陸奥湾の湾口周辺海域の計 11 調査地点において、試験船青鵬丸でボンゴネット往復傾斜曳を行った。
- (3) 成魚分布調査：津軽海峡海域（佐井沖、大畑沖）において、6 月と 10 月に試験船青鵬丸でオッターロール曳きを行った。
- (4) 夏眠場調査：東通村尻労沖、六ヶ所村泊沖において、9 月に文鎮曳きを行った。

〈結果の概要・要約〉

- (1) 漁獲動向調査：平成 20 年の漁獲量は県全体で 180 トン、陸奥湾湾口周辺漁協では 124.6 トンと依然として低水準であった（図 1）。
- (2) 稚仔分布調査：稚仔分布密度は、平均で 0.9 個体/100 m²と推定され、平成 14 年以降最低であった（図 2）。
- (3) 成魚分布調査：6 月は佐井沖で 3 尾、大畑沖で 3 尾、10 月は大畑沖で 1 尾採捕され、その水深は佐井沖では 100m と 200m、大畑沖では 200m であった（表 1）。また、全長は 18 cm ～ 23 cm であった（図 3）。
- (4) 夏眠場調査：採捕されなかった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

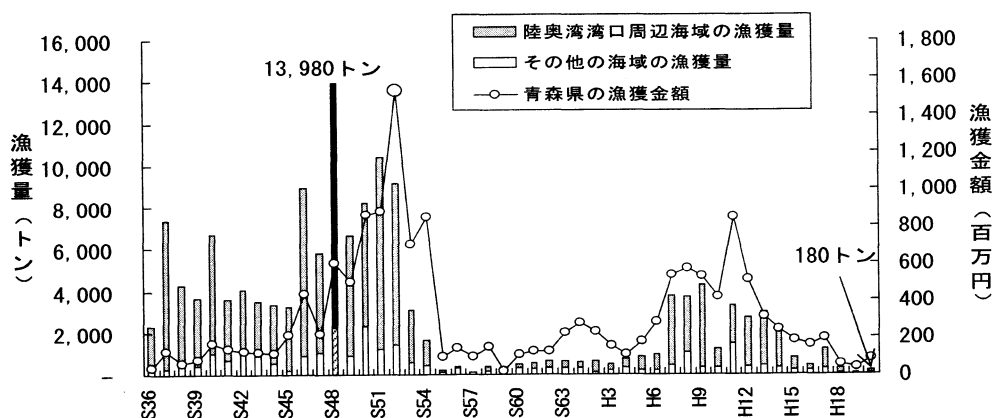


図 1 イカナゴの漁獲量と漁獲金額の推移

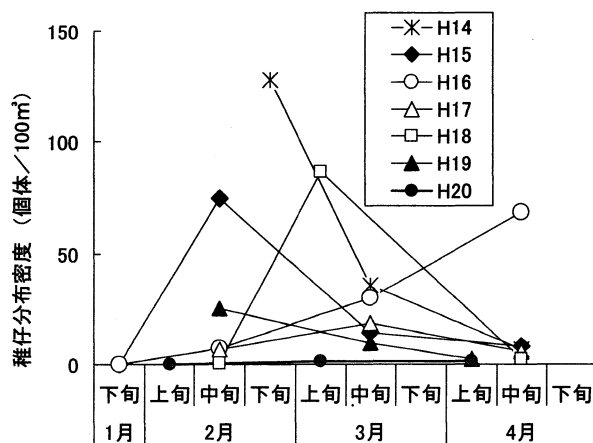


図2 稚魚分布密度

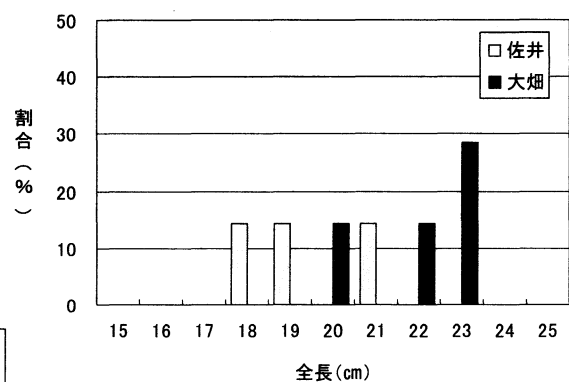


図3 成魚の大きさ

表1 水深別成魚採捕結果 (尾)

	佐井沖			大畑沖		
	100m	150m	200m	100m	150m	200m
6月	1	0	2	0	0	3
10月	0	0	0	0	0	1
計	1	0	2	0	0	4

〈今後の問題点〉

産卵前の成魚分布が不明である。

〈次年度の具体的計画〉

今年度と同じ

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・平成20年度イカナゴ漁業検討会で調査結果を発表
- ・平成20年度第1回陸奥湾地区及び太平洋地区漁業者協議会で調査結果を発表